

研究主題 ICT を活用した授業づくり

I 主題設定の理由

1 今日の教育の課題から

- ・社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来、予測困難な時代
→ICTの活用を通して、一人ひとりの児童生徒が持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

2 江津市のICT目標

- ・江津市GIGAスクール構想（R6～R11） 「江津市が目指す子どもの姿」
 - ICTを効果的に活用できる子どもの育成
 - 必要な情報を選択し、活用できる子どもの育成

3 学校経営方針との関連

学校教育目標・目指す児童像（R6）

強い体と美しい心を持ち、自ら学ぶ子どもの育成

○自ら学び共に学ぶ子

1. 生涯にわたって学び続ける力の育成

- ・ICT機器を適切に活用しながら、学び方を選択したり協働的に学んだりできる

4 実態

学習意欲・習慣

（低学年）

- ・学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。
- ・自分の考えや思いを伝え合えるよう、ペア学習を進めている。
- ・学力の差が大きい
- ・家庭学習は、決められた課題だけはやってくる。

（中学年）

- ・学習課題に対して熱心に取り組める児童と、どうしたらよいか分からず手が止まる児童がいる。
- ・ペア学習やグループ学習にすると、友達の見解を参考にして考えることができる。
- ・家庭学習の習慣がついている児童とそうでない児童がいる。自主学習も積極的に取り組んでいる。

（高学年）

- ・授業中は、それぞれの課題に意欲的に取り組むことができる。
- ・ペアやグループ活動の際に、人間関係やコミュニケーション力の差が原因で進まないこともある。
- ・家庭学習の課題以上のこと（自主学習等）への取り組みには消極的である。

児童の ICT 活用能力

(低学年)

- ・起動させる。シャットダウンさせる。
- ・タイピング練習、タブドリ live! ヤフーキッズでの図鑑活用

(中学年)

- ・タイピング練習、タブドリ live! ヤフーキッズでの図鑑活用
- ・社会でグーグルアースを活用
- ・teams を使って見学の際の質問項目や感想の打ち込み
- ・国語、理科、総合の時間で PowerPoint の作成
- ・ローマ字表が手元にあると安心できる児童が 4 人。残りの 8 人はローマ字打ちができる。

(高学年)

- ・調べ学習、まとめ学習 (PowerPoint、Word、Excel の打ち込み)
- ・タブレットドリル、動画、写真撮影
- ・振り返り・感想の打ち込み

教師の ICT を活用した授業を行う上での課題や願い

- ・使い慣れるまでに時間がかかる。(操作ミス、動作不良などで活動より作業時間が多い)
 - ・個別最適にはなり得るが、協働的ではなく、個人の作業にとどまりがち
- お互いに見合う、より良く改善する、共同編集する等、友達との学習意義が分かるようにしたい
- ・タブレットでなくてもできる活動に、使っていることが多い
 - ・子どもたちがどの程度使いこなすことができるのか、どのようなソフトやサイトを使いどんな活動をしているのか各クラスで差があるため、事前に知りたい。

II 研究の概要

- (1) ICT の日常使用 (児童)
- (2) 朝活動でのスキルアップ (タブレットドリル、タイピング練習等) (児童)
- (3) ICT を活用できる授業案紹介と実施 (教師)

III 研究計画

	内容
1年目	ICT を使ってみる (児童) ICT を活用する授業の構想力を高める (教員)
2年目	ICT を使える (児童) ICT を効果的に活用する授業の構想力を高める (教員)
3年目	ICT を使いこなす (児童) ICT を活用した個別最適な学び・協働的な学びの場の設定 (教員)

1. ICT 研修

- (1) タブレットドリル校内研修 (5月13日)
- (2) 市教委 学力育成に関わる学校訪問・校内研修での授業プランの作成・実践考察 (1 学期中・夏休み)
- (3) ICT を活用した授業案の紹介 (夏休み) と 2 学期以降での実践

2. 研究授業 ※原則全員参加

- (1) 3年目研修（授業公開） 木村
- (2) 6年目研修（授業公開） 大井 和久利
- (3) 11年目研修（授業公開） 千代延

3. フリー参観授業

- ・ 2学期、3学期に ICT を活用した授業をフリー公開（各3日間程度実施）
 - ・ 3日間の中で可能な時間を先生方に選択してもらい公開
 - ・ 参観後の振り返りについては方法を検討中

4. まとめ

- ・ 児童アンケートの分析